植物暗記

種子植物と花の見方

花の性別・花びらのつながり・胚珠の位置を分けて整理する

01　種子植物の大きな分け方

種子植物は、種子をつくる植物。胚珠（はいしゅ）の位置で区別する。

種子植物

裸子植物

胚珠が子房に包まれず、むき出しになっている。
花びらはなく、雄性と雌性の器官が分かれる。

マツ、スギ、ヒノキ、イチョウ、ソテツ

被子植物

胚珠が子房に包まれている。
次のページでは、身近な8つの科を取り上げる。

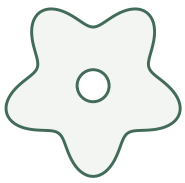
02　花の性別を見る

単性花　雄花（おばな）と雌花（めばな）が別の花。

例：ウリ科の代表例、トウモロコシ。
トウモロコシはイネ科だが単性花。

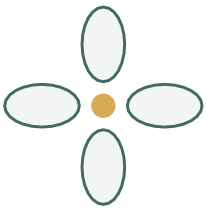
両性花　1つの花に、おしべとめしべがある。

03　花びらのつながりを見る



合弁花

花びらの全部
または一部が
つながる。



離弁花

花びらが
1枚ずつ
離れている。

合弁花の定義は「5枚」ではなく、花びらのつながり方。
性別と花びらの形は別々の観点。科全体に同じ性別を当てはめない。

掲載した特徴は代表例です。種類・品種による例外があります。

植物暗記

科の特徴と代表例

科名と植物名を組み合わせ、花の特徴は代表的な形として覚える

科	代表的な花の特徴	植物の例
ウリ科	単性花・合弁花の代表例	ヘチマ、キュウリ、スイカ、カボチャ、ユウガオ
イネ科	目立つ花びらはない	イネ、ムギ、タケ、エノコログサ、ススキ。これらは両性花の代表例。
ナス科	両性花・合弁花の代表例	ナス、トマト、ピーマン、ジャガイモ
キク科	小さな花の集まり 小花の花冠は合弁	キク、タンポポ、ヒマワリ、ハルジオン、ヒメジョオン、ダリア、コスモス、レタス、セイタカアワダチソウ
ヒルガオ科	両性花・合弁花の代表例	アサガオ、ヒルガオ、ヨルガオ、サツマイモ
アブラナ科	両性花・離弁花 花びらは基本4枚	アブラナ、キャベツ、ハクサイ、ダイコン、ナズナ、イヌガラシ、カブ
バラ科	両性花・離弁花 花びらは基本5枚	バラ、ウメ、モモ、サクラ、イチゴ、リンゴ、ナシ
マメ科	両性花・離弁花 花びらは基本5枚	インゲンマメ、エンドウ、シロツメクサ、ダイズ

キク科の見方　小さな花が集まり、1つの花のように見える。
両性花のほか、種類によって雌花や無性花もある。

別名も確認　エノコログサ＝ネコジャラシ　ダイコン＝スズシロ
カブ＝スズナ　ナズナ＝ペンペングサ

食べる部分　イチゴ・リンゴ・ナシは、主に花托（かたく）が発達した部分を食べる。

植物暗記

種子と養分のたくわえ方

成熟した種子に胚乳が残るかどうかと、養分をためる器官を確認する

04　有胚乳種子と無胚乳種子

有胚乳種子　成熟した種子に胚乳が残る。
代表例：イネ、ムギ、トウモロコシ、カキ

無胚乳種子　成熟した種子に胚乳がほとんど残らない。
代表例：インゲンマメ、エンドウ、ダイズ、アブラナ

上の有胚乳の例は主に胚乳に、無胚乳の例は主に子葉に、発芽に使う栄養分をたくわえている。単子葉・双子葉の区分だけでは決まらない。

中学入試での整理　胚乳に養分を蓄える種子として覚える例：
ゴマ、オシロイバナ、カキ、ホウレンソウ

05　子葉が地中に残る芽生え

クリ、ソラマメ、アズキ、エンドウ、カシ、ナラ

子葉が地上に出るかどうかも、胚乳の有無とは別の観点。

06　根や茎に養分をたくわえる（中学入試での整理）

根　ダリア、ゴボウ、サツマイモ、ニンジン、ヤマノイモ

茎・地下茎など　サトイモ、ハス、タケ、ジャガイモ、クワイ

確認に使った主な資料

日本植物生理学会「合弁花の定義」
福岡教育大学 福原達人「種子と芽生え」
日本薬学会「ヤマノイモ」

資料名をクリックすると出典が開きます。図は本プリント用の模式図です。